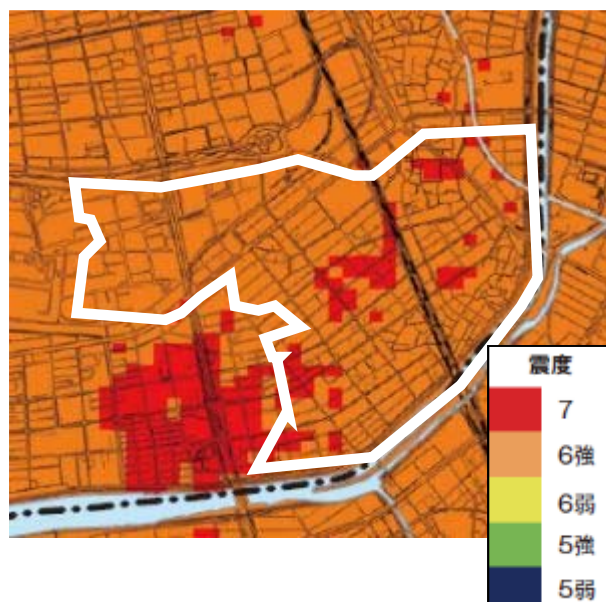


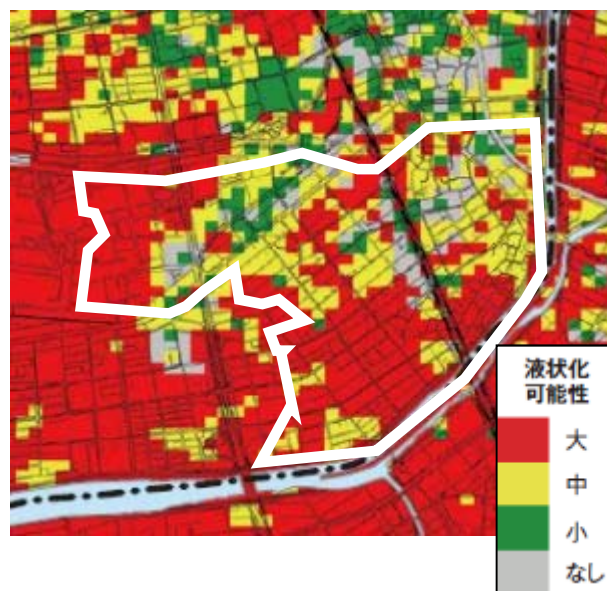
8. 参考資料

8-1 南海トラフ巨大地震被害想定

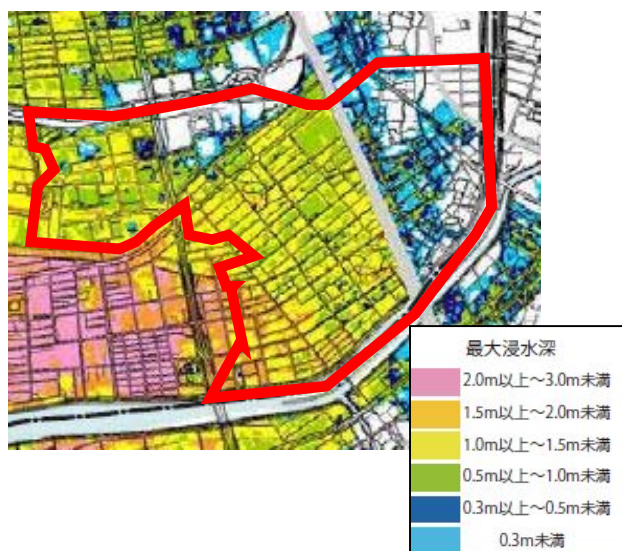
震度



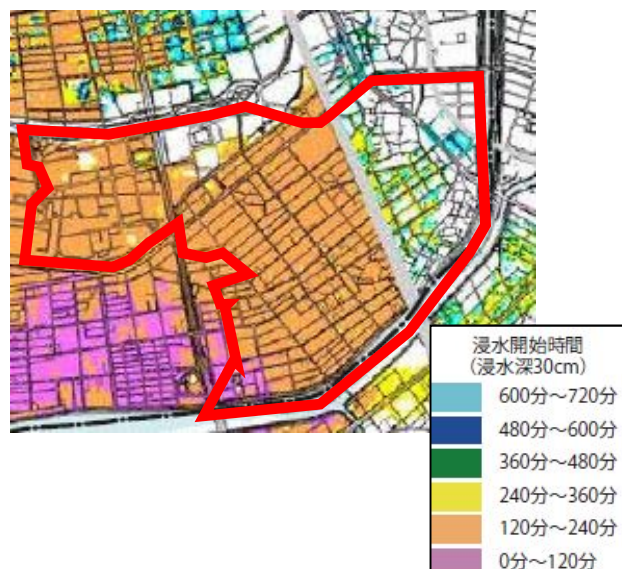
液状化



浸水深

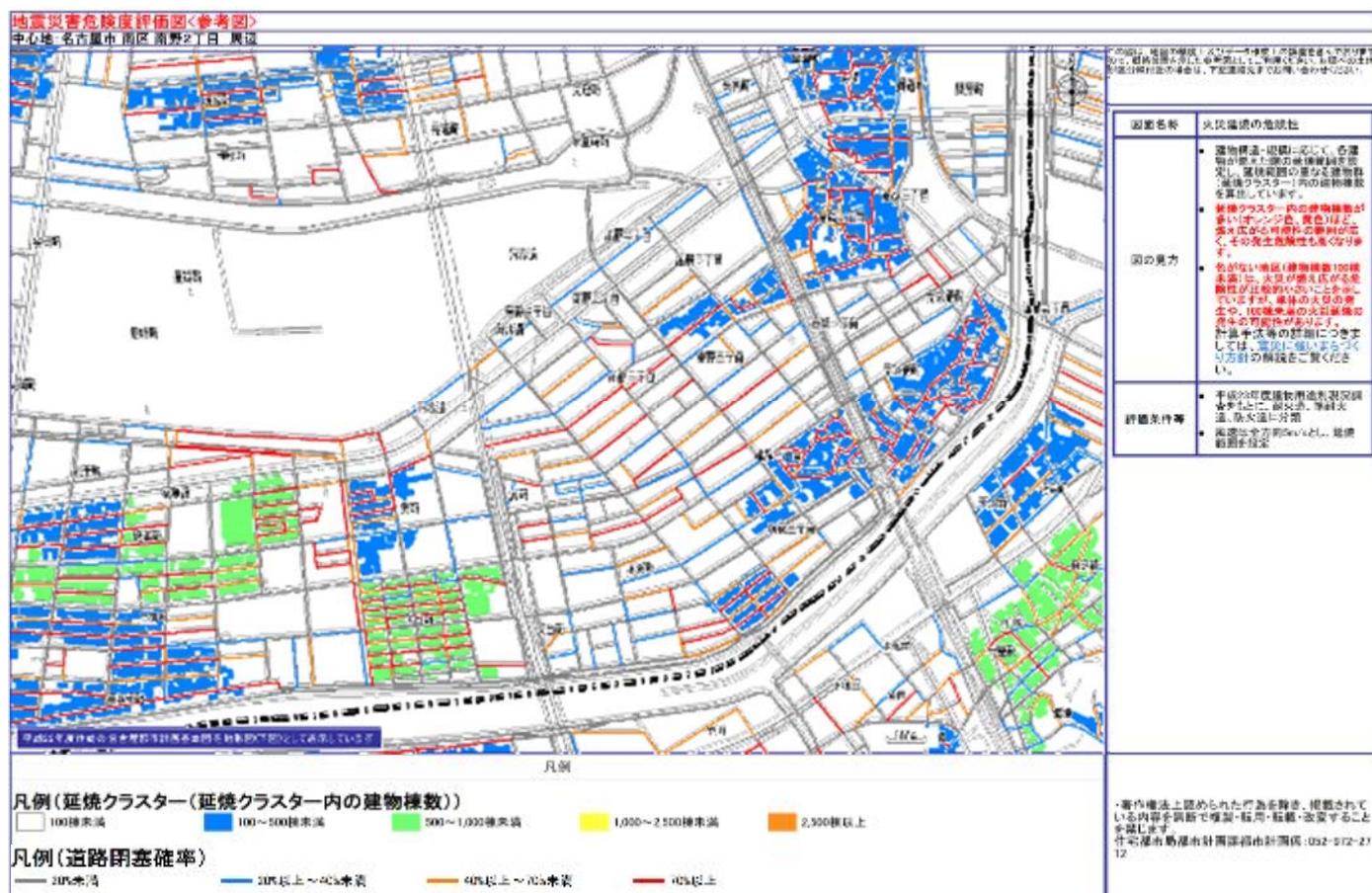


浸水開始時間



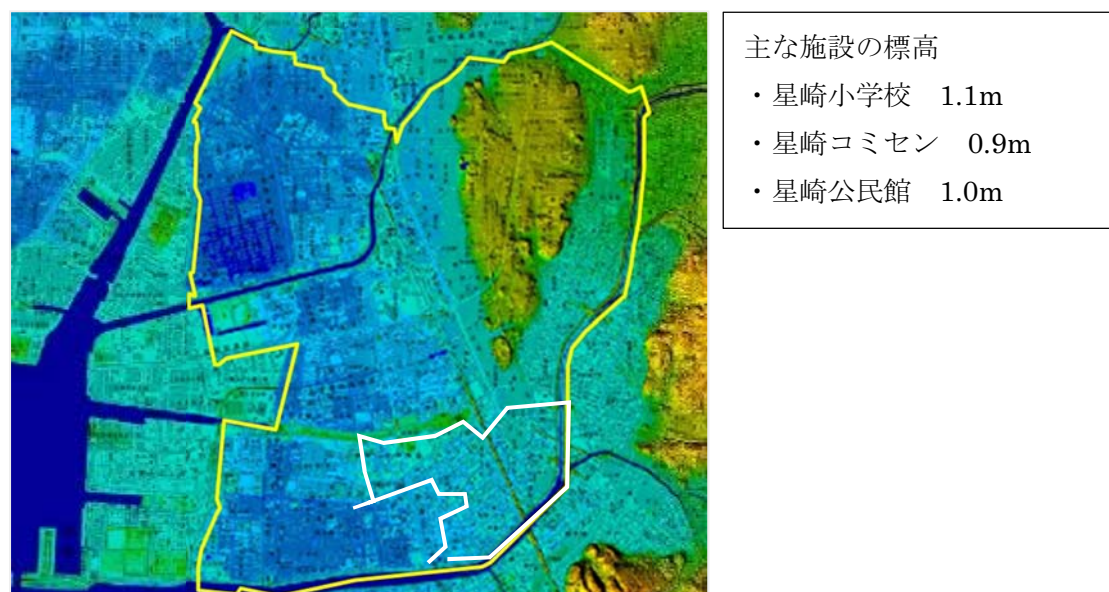
出典：名古屋市「あなたの街の地震ハザードマップ」「あなたの街の津波ハザードマップ」

8-2 地震災害危険度評価（火災延焼危険性・道路閉塞危険性）
（あらゆる可能性を考慮した最大クラス）



出典：名古屋市都市計画情報提供サービス「地震災害危険度評価図情報」

8-3 標高図



出典：国土交通省国土地理院「デジタル標高地形図」

8-4 伊勢湾台風時の浸水水位、湛水水位、湛水日数

出典：伊勢湾台風災害誌

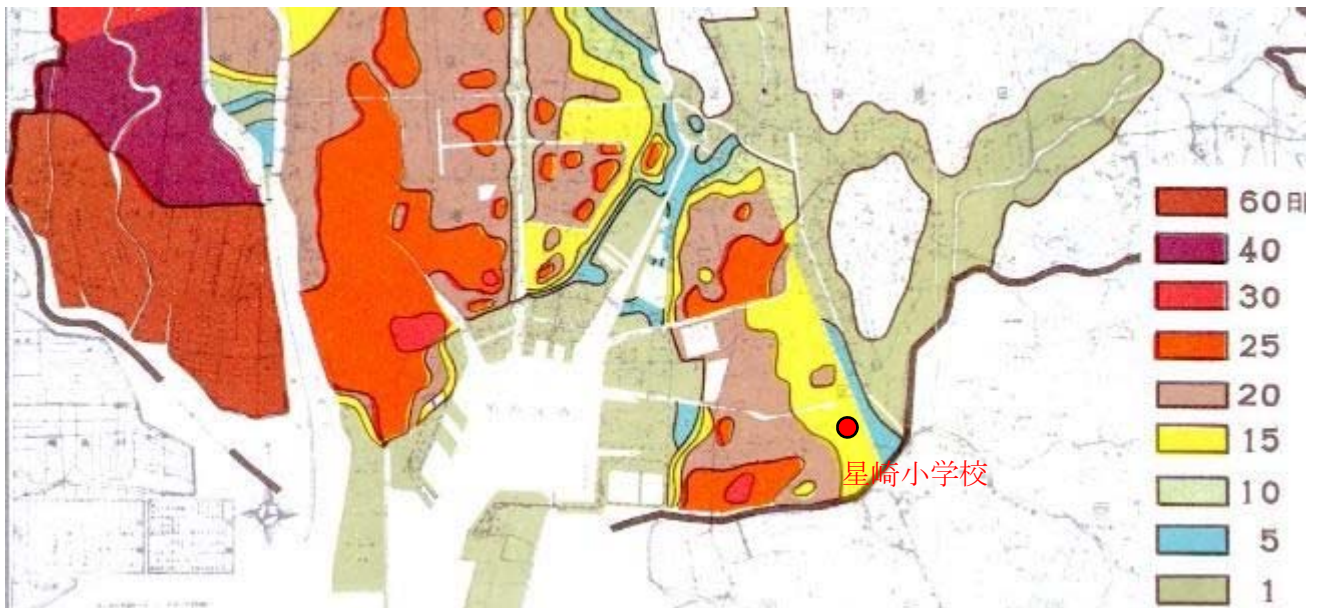
■最高浸水水位図



■湛水水位図



■湛水日数図



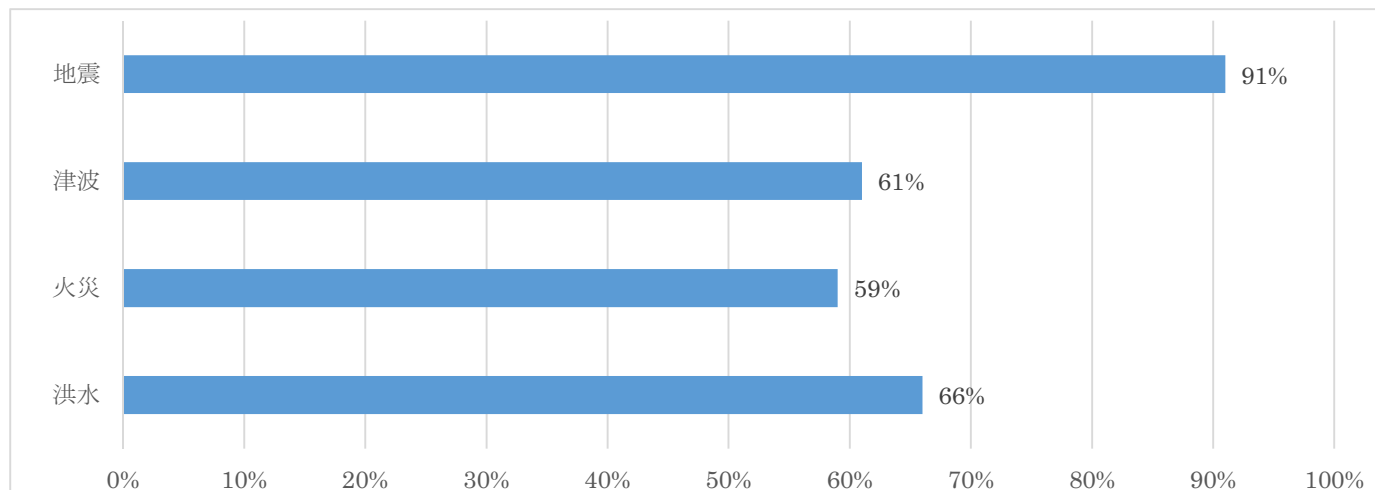
8-5 平成 27 年度学区防災アンケート（抜粋）

調査期間：平成 27 年 9 月 10 日～10 月 10 日

調査方法：町内会に加入している 1927 世帯へ配布

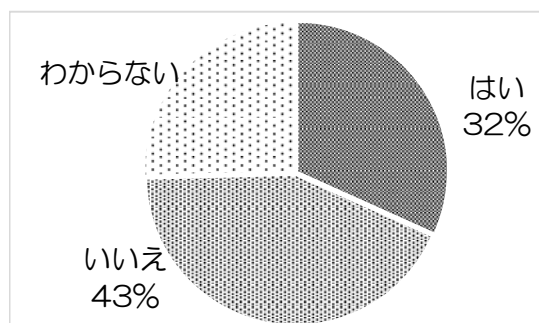
回収率：58.5%（1128 世帯より回答）

<関心の高い災害種別>

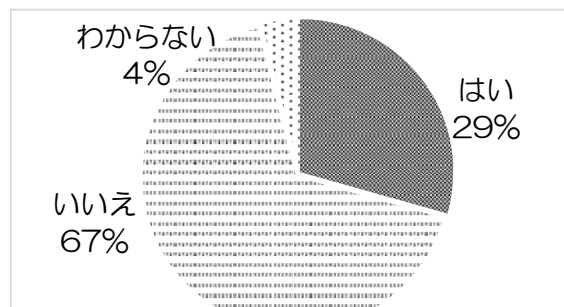


<防災対策の実施状況>

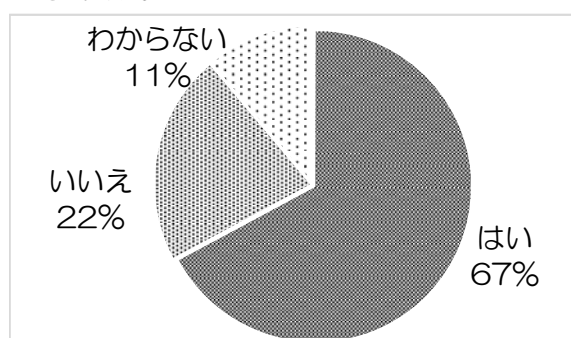
① お住まいは耐震化していますか。



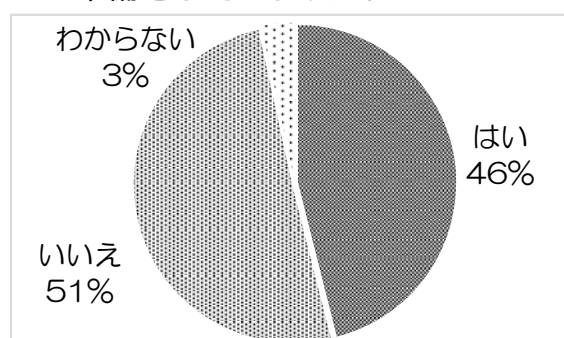
② 家具・家電の固定・転倒防止の対策をしていますか。



③ 避難する場所までの経路は確認していますか。



④ 非常用持出袋や飲料水などの備蓄物資の準備をしていますか。



①星二町内会

項目	地震、津波に対する避難行動・安否確認マニュアル
グループ名	Aグループ(星二公民会)
行動マニュアル	※手順をSWiTHで記入
各自 地震発生 (想定)	1、 各戸地震の揺れが収まったら、家族の安否の確認を行う。 (家庭内での安否確認の方法については、家族の中で事前に話し合うこと。)
↓	2、 各自、自宅、周辺の状況確認と避難勧告や指示の情報収集 *火の元の確認 *けが人の有無 *避難経路の再確認 テレビ、ラジオ等の情報収集は各自で行う。
(避難準備)	3、 各自避難の実施、避難が必要と判断したら、電気ブレーカーをOFFにし、非常持ち出し袋を携行
↓	4、 各自大声で隣近所に声掛けしながら地域の一時集合場所に集合(光照寺掲示板前、宝マシヨン前、阿原町は阿原公園前) 本人・組長共に隣近所の情報を収集し防災メンバーに提供する。
(一時集合場所)	*途中、火災、けが人がいた時は、初期消火については、対応する。 けが人については、元氣な人が対応。その情報を 次の一時集合場所まで持っていく。
↓	集合してきたら、防災メンバーが町内名簿でフォローする。 向こう3軒両隣りで情報収集を行って下さい。
(一時集合場所)	5、 10分後に星二町内の一時集合場所(国道歩道橋下)に移動し、会長が各組の集合状況(人数)をチェックし、指定緊急避難場所である笠寺小学校までの経路を指示。防災メンバーと組長が笠寺小学校西門・北校舎棟に誘導(チェック後すぐに行動し避難する)
(指定緊急避難場所) 笠寺小学校	6、 笠寺小学校で防災メンバーが会長指示により町内会の会員の安否の再確認をする。(町内名簿と公民会マップによる安否情報の収集)
↓	7、 救助チームは二次災害を防ぐためにこの後編成する。
(到着)	8、 地区本部へ会長が状況報告。
今後の課題	1、 要援護者の具体的な避難訓練の実施 2、 訓練参加世帯の増加対策 3、 日常的に「避難場所・笠寺小学校」の周知徹底推進 4、 避難経路の現状と見直し判断(建物倒壊場所のチェック) 5、 その他の災害(台風、大雨等)のマニュアルづくり

一人の犠牲も出さないために。
避難行動の基本は自助です。

項目	安否確認マニュアル(津波避難時)
グループ名	Aグループ(星二公民会)
作成条件	※手順を5WITHで記入
家族	地震の揺れが収まったら家族長が家族の安否を確認する。 不在者については、家族間で災害伝言メール等で確認。 この情報は、一時集合場所へ報告する その時には、声かけ等で得られた情報も報告。
災害時 要援護者	避難をする時は支援者が災害時要援護者に声かけ等個別支援計画に従って行動する。 避難が必要な時は、ひとまず高層建物(宝マンション、トヨタテクノ等)に誘導する。
町内組単位	一時集合場所では、組単位で組長を主体として情報を収集。 次の一時集合場所でも同様に情報班が収集。
町内会単位	避難所(笠寺小学校)では、町内会長が避難住民を把握し、(自宅待機者も)地区本部に連絡。



②星南町内会

項目	避難行動・安否確認	H28.12.7
グループ名	Aグループ(星南公民会)	
行動マニュアル	地震の揺れが収まった後	
地震発生 0:00	①各戸で自分自身と家族の安全を確保し、電気ブレーカーを遮断して二次災害の防止をする。(家族の安否確認について話合っておくこと。)	
	②ラジオ、スマホなどから避難勧告、指示など正確な情報を収集する。	
避難準備 0:15	避難準備	
	③自宅から避難をする際、大声で向こう三軒両隣に声掛けをして安否の確認をする。	
	④各自非常持出袋を携行して一時集合場所に向かう。その際経路の被災状況の把握に努める。	
	⑤災害時要援護者については、支援者による声掛けなど必要な支援をする。	
	⑥避難途中に火災を発見した場合は、初期消火のみ町内に設置された消火器で消火活動を行う。	
到着 0:30	一時集合場所において	
避難所へ 0:45	⑦一時集合場所で組単位で組長その他状況を把握できたものは、住民の避難被災状況を公民会長、防災会メンバーに報告をする。(情報は正確さよりも緊急なものを主に迅速に行うものとする。)	
	⑧報告を受けた役員は情報内容を検討し、安全を確認し緊急に対応すべき救助案件については、救助活動に入る。	
	⑨その他の避難住民は、役員の指示により避難経路に従い指定緊急避難場所(笠寺小学校)に向かうこととする。	
到着 1:25	指定緊急避難場所において	
	⑩指定緊急避難場所に到着後、各組長その他役員は、住民の安否、避難者の人数を公民会長に報告する。公民会長は、災害台帳により避難状況の詳細を把握する。	
今後の課題	①災害時要援護者の避難(訓練)について ②訓練参加者の増加対策は、町内広報と役員、各団体への参加依頼 ③指定緊急避難場所(笠寺小学校)の周知	

③星北町内会

項目	避難行動・安否確認
グループ名	Aグループ(星北公民会)
行動マニュアル	地震の揺れが収まった後
	①各戸で自分自身と家族の安全を確保し、電気ブレーカーを遮断して二次災害の防止をする。(家族の安否確認について話合っておくこと。)
	②ラジオ、スマホなどから避難勧告、指示など正確な情報を収集する。
	避難準備
	③自宅から避難をする際、大声で向こう三軒両隣に声掛けをして安否の確認をする。
	④各自非常持出袋を携行して一時集合場所(さうお駐車場)に向かう。その際経路の被災状況の把握に努める。
	⑤災害時要援護者については、支援者による声掛けなど必要な支援をする。
	⑥避難途中に火災を発見した場合は、初期消火のみ町内に設置された消火器で消火活動を行う。
	一時集合場所において
	⑦一時集合場所で組単位で組長その他状況を把握できたものは、住民の避難被災状況を公民会長、防災会メンバーに報告をする。(情報は正確さよりも緊急なものを主に迅速に行うものとする。)
	⑧報告を受けた役員は情報内容を検討し、緊急に対応すべき救助案件については、救助活動に入る。
	⑨その他の避難住民は、役員の指示により避難経路に従い指定緊急避難場所(笠寺小学校)に向かうこととする。
	指定緊急避難場所において
	⑩指定緊急避難場所に到着後、各組長その他役員は、住民の安否、避難者の人数を公民会長に報告する。公民会長は、災害台帳により避難状況の詳細を把握する。
今後の課題	①災害時要援護者の避難(訓練)について ②訓練参加者の増加対策は、町内広報と役員、各団体への参加依頼 ③指定緊急避難場所(笠寺小学校)の周知

④荒井町内会

避難行動マニュアル 荒井公民会 地震発生で家が揺れたしたら、窓、家具から離れ、丈夫な机などの下に隠れるか、布団やクッションなどで頭を守る。	4、松風公園に移動後、公民会長が情報班と住民台帳にて住民の確認をする。 ① 各組長は松風公園に到着後、住民の安否、避難者の人数(人員)を公民会長に伝える。(公民会長は対策本部を設置し、住民台帳で避難状況を把握し記録する) ② 公民会長が不在の時は副会長がする。 ③ ケガ人発生の際は副会長がする。 ④ 119番がつかないときは急いで笠寺病院または本城中学校に運ぶ。 ⑤ 情報班はラジオ、携帯電話で津波警報が出ているかを確認する。 ⑥ 公民会長は津波の有無しで、避難先を星崎小学校か笠寺小学校にするか決める。 ⑦ 公民会長は住民台帳で確認できた人から小学校または自宅待機かを判断してもらい、記入後、避難してもらう。 ⑧ 車いす等の要支援者は住民の協力により、速めの移動をお願いする。 ⑨ 公民会長は地震発生からの時間を判断して、笠寺小学校まで行けないと判断したときは名南高校などへの変更を考慮する。 5、笠寺小学校に移動と決めたとき。(4艇行動時間0分) ① アンダーパスを避けて、できるだけ国道1号線を通る。 ② 避難は徒歩で。 ③ 要支援者、子どもを最優先に声をかけ合い、みんなで避難する。 6、笠寺小学校に到着後、星崎小学校に連絡し指示を仰ぐ。(時間がなくて他の場所に移動したときに通信手段があるのか?) 7、星崎小学校に移動したと決めたとき。 ① 慌てないで声をかけ合い、注意しながら移動する。
---	---

尚、29年の5月と9月に実施する町内清掃の時には、1、2、3、を想定しながらタオルを玄関先に縛り、組ごとの一時集合場所に各組集まっていたいて、まとまって松風公園に移動願います。そのあと清掃に入ります。(雨天の時は松風公園までの移動まで実施します。)

⑤牛東町内会

項目	災害直後の避難行動・安否確認
グループ名	Bグループ(牛毛東部公民会)
行動マニュアル 各自	1、緊急メールを見る。 各戸地震の揺れが収まったら、家族の安否の確認を行う。 (家族の安否確認方法は常に話しておくこと)
↓ (避難準備)	2、各自、自宅周辺の状況確認と避難勧告や指示の情報収集を行う。 ※火の元の確認 ※避難経路の再確認、各自テレビ・ラジオで情報収集
↓ (一時集合場所)	3、各自避難の実施、避難が必要と判断したら、電気ブレーカーをOFFにし非常袋を持ち出す。
↓ (一時集合場所)	4、各自大声で隣近所に声掛けしながら前もって決めてある一時集合場所 松風公園に集合する。 ※組単位で集まり、組長はじめ町内会長筆頭に全役員で全員の安全確認
↓ (指定緊急避難場所)	5、災害時要援護者、特に一人暮らしの人、車椅子利用者は 2人一組で避難が出来るように配慮する。 お年よりだけでなく子供たちも安心して避難できるように配慮する。 ※災害時要援護者氏名は決定済み、支援者はいつも念頭においておく。 ※各家庭で避難するか否かは各自で決定してもらう。 会長が各組の集合人数をチェックし場所の状況を調べ防災メンバー組長と共に安全に指定緊急避難場所の笠寺小学校西門・北校舎棟に誘導する。
8:30 ↓	6、笠寺小学校にて防災メンバーが会長の指示により町内会の会員の安否を再確認する。
9:30	7、救助チームは二次災害を防ぐためにこの後編成する。
	8、地区本部へ会長が状況報告。

※今後の課題 高齢者が多数いますので、近くの牛毛神社への一時避難も必要と考える。

⑥上浜町内会

※上浜公民会 今こそ自主防災をしっかりと検証

2016年12月14日

項目	町内における被害状況の収集及び伝達方法 地震(津波)災害を想定した避難訓練
グループ名	Cグループ
行動マニュアル	地震の揺れがおさまったら(自分・家族の安全確認を優先) ① 各家庭で自分自身、家族の安全を確保し、電気ブレーカーを遮断して二次災害の防止をする ② 災害用伝言ダイヤル「171」で、各自伝言を録音し、確認し合う ③ 携帯ラジオ、スマホ、ラジオで正しい情報を把握する(避難準備) ④ 非常持出し品、貴重品の準備をし、避難の準備をする 避難開始 ⑤ 各自、両隣に大声をかけながら一時避難場所(上浜南公園)へ避難する 特に独居老人などの声かけを配慮して確実に行う ※津波が発生し、緊急避難が必要な場合は、星崎小学校に避難する。 ⑥ 集合したら、防災委員・組長にて(情報は情報班が収集し、会長が集約する。緊急性が高いものを把握する)近隣の被害状況確認を行う 対象者いれば・・・(被災者、安否未確認者、要支援救護者) 火災発生の場合・・・(消火班で初期消火に当たる) ⑦ 会長指示で、前もって決まっている役員がいらない場合の役割分担、救出救護、消防への通報を行う ⑧ 救出後、集合した人の安否確認を各組で行う。地域以外にいる人の把握、けがの把握などを災害台帳で確認をする。 ⑨ 緊急性の高いけが人がいる場合は、救急車の要請。できない場合は、二次避難場所への搬送を行う。(救出・救護班) 二次避難場所(津波のための避難): 星崎小学校 ⑩ 役員は上浜公園に残り、避難困難者に付き添い、二次避難場所へ誘導する(避難誘導班)
課題	防災委員: 情報班、救出・救護班、消火班、非難誘導班の役割の確認 上記、各委員の役割と町民との連携させるため、総常会、回覧板で周知 災害、地震等、防災意識を高めるための方策 基本は、『共助』にて近隣(町民)との付き合い方が大切で、お互いを知りあうことが大切。 星崎小学校の連絡先(電話番号の確認)

⑦上南町内会

題名	地震時の行動マニュアル	一時避難場所		上浜南部公民館	管理番号	地震時-02	
		二時避難場所	星崎小学校		対象者	上浜南部公民会	
手順	取るべき行動	大切な事	準備する物	だれが	図解		
※	地震が発生						
1	机の下等の安全な場所に身を隠す	自分の身は自分で守る	安全な場所の確保	自分自身			
2	家に居る家族の安全を確認する			家族で元気な人			
3-1	家と家族に異常があれば次の行動を取る						
	① 自分を含め家族に負傷者がいたら119番通報か 大声で助けを呼ぶ	普段から隣近所と 話し合いをする	電話やスマホ等	家族で元気な人			
	② 火災が発生したら消火器か水で火を消す		消火器や消火バケツ	家族で元気な人			
3-2	家族の安全が確認できたら次の行動(避難)をする						
4	黄色テープを玄関ノブに掛ける	無事を知らせる	黄色テープ	家族で元気な人			
5	電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を締める	二時災害防止		家族で元気な人			
6	頭を保護する物を被る	上からの落下物に注意	ヘルメットや頭巾等	家族全員			
7	避難袋を持つ	3日分の水と食料	日頃から避難袋の準備	家族全員			
8	一時避難場所へ町内全員が集合する	被災状況の確認	携帯ラジオや懐中電灯	避難する住民			
9	災害救助隊を結成する	防災会メンバーを主体	防災会メンバー表	公民会長又は副会長			
	① 情報班 … 津波や被災状況の確認等	デマ情報に注意	携帯ラジオやスマホ等	防災会メンバーと役員			
	② 救出救護班 … 情報に基づき優先順位を 決め行動する	絶対ムリをしない	バールやハンマー等	防災会メンバーと役員			
	③ 消火班 … 情報に基づき優先順位を 決め行動する	絶対ムリをしない	消火器や消火バケツ	防災会メンバー			
	④ 給食給水班 … 水道やコンビニの状況を確認		水や食料の確保	防災会メンバー			
	⑤ 誘導班 … 避難経路の確認等	住民の誘導	拡声器や口頭	防災会メンバー			
	⑥ 伝達班 … 組内の安否確認と情報伝達		黄色テープや口頭	組長又は代理			
	⑦ 要援護者の支援 … 自宅を訪問し声掛けと対応	早めの行動が大事	車イスやリヤカー等	各支援者			
10	火災や負傷者がいて自分たちで消火や救助が困難は 場合は119番に通報する	停電時は公衆電話 (鳴尾公園に有り)	携帯電話等	災害救助隊リーダー			
11	津波の発生が発表されたら星崎小学校へ避難する	徒歩で	避難袋	住民全員			
注意事項	1. 1年に1回は見直しをする(学区防災訓練日)	改定日	H27/10/01	改定理由	新規	改定者	橋内 清三郎
	H28/10/01		フォーマット見直し(大切な事追加)		橋内 清三郎・梅村 民男		

⑧牛毛町内会

項目	発生直後の避難行動・安否確認
グループ名	Cグループ（牛毛公民会）
行動マニュアル	*手順を5W1Hで記入
各自 0～2分	1、揺れが収まり次第、火の始末を最優先 余震安定後同居者の安否確認
2～5分	2、屋内避難経路（出口）確保後、スマホやラジオにて正確な地震規模 及び今後の状況把握（狭小道路地区のため、避難中の事故防止）
避難準備 5～10分	3、ブレーカー・ガス元栓を切り、貴重品・非常袋を携行し自宅周辺 声かけ確認しながら一時避難場所（四町公民館）へ避難
一時避難場所 10～20分	4、四町公民館を一時災害対策本部とし、自主防災メンバーを主に直 ちに町民安否確認（公民会組別名簿活用） 組長 → 情報班 → 正・副会長
町民安否確認 20～40分	5、情報担当がスマホ津波情報にて地域への有無確認後、救出救助班 要援護者支援班 避難誘導班（星崎小学校へ集団避難）の3つに 分け行動開始 二次災害危険判断場所においては、やむを得ず公助に救出救助 をゆだねる（119番通報）
二次避難場所 星崎小学校 40～50分	6、到着状況安定後、情報班主に組長他役員にて、避難者人数と安否 （怪我等を含む）確認徹底 7、外出者については、伝言ダイヤル等活用し順次安否把握 会長は、上記6、7を元に災害台帳にて避難状況の詳細を把握し本 部へ連絡する。
課題	1、災害時要援護者支援のあり方（支援側人数、時間的問題） 2、狭小道路地区のため、劣化ブロック塀倒壊や破損瓦による避難経 路確保（70歳以上136名） 3、一次避難場所（四町公民館）の周知

⑨鳴尾町内会

項目	発生直後の避難行動・安否確認
町内会名	鳴尾公民会
行動マニュアル	1 自分の身を守る行動（シェイクアウト）をとる。 揺れが収まったら、家族の安否確認を行う （家庭内での安否確認の方法は、事前に話し合うこと）
地震発生 避難準備	2 各自、自宅、周辺の状況確認し警報の確認、情報収集 （テレビ、ラジオ、災害ダイヤル等） * 自宅に安否確認表示をする。（黄色の布） * 火の元の確認 * けが人の有無 * 避難経路の再確認
災害本部設置	3 四町公民館に防災メンバー集合、会長が本部設置、一時集 合場所と星崎小学校に向かわせる
避難指示 （避難準備）	4 電気ブレーカーをOFFにし、非常持ち出し袋携行、各自 隣近所に声掛けし、安否確認表示を気にしながら一時集 合場所（鳴尾公園）に集合。 *要援護者については、支援者による声掛けなど必要な支 援をする *途中火災、けが人がいたときは、初期消火のみ対応、 けが人については、元気な人が対応。その情報を一時集 合場所に持ってゆく。 5 会長が防災メンバーが町内名簿でチェックし指定緊急避 難場所である星崎小学校への経路を指示誘導する。
津波警報発令	*川に近い鳴尾公園より、直接、星崎小学校が津波避難ビル へ向かう。 * 垂直避難もあり。
指定緊急避難 場所	6 指定緊急避難場所に到着後、各組長、防災メンバーは、住 民の安否、避難者の人数を公民会会長に報告、公民会会長は災 害台帳により避難状況の詳細を把握する。
課題	災害時要援護者の具体的な避難訓練の実施 津波避難ビルの周知徹底推進 発災後、防災メンバーがすんなりと集合できるか？ ペットの扱い

項目	安否確認マニュアル
町内会名	鳴尾公民会
作成条件	
家族	在宅者 → 家族長が安否の確認 不在者 → 連絡方法（行動計画）をあらかじめ決めておく （災害用伝言ダイヤル、伝言板サービス、伝言版 web171） 家族長の指示のもと安否表示（黄の布）を掲示
要援護者	声掛け等、個別支援計画をもとに行動、確認 避難が必要な時は、垂直避難、指定緊急避難場所に誘導する 確認後、安否表示
町内組単位	一時集合場所で、組単位で組長を主体として情報を収集、会長 が防災メンバーがチェックする （組別会員集計表、回覧板名簿で）
町内会単位	指定緊急避難場所（星崎小学校）では町内会長が避難住民を把 握し（自宅待機者も）地区本部に連絡 （災害対策台帳、組別会員集計表で）

学区内津波避難ビル指定事業所

- 四町公民館
 ① 大丸星崎店 南野1-91
 ② 中部工業(株) 南野3-19
 ③ 星崎運輸 南野2-58
 ④ 星崎小学校 北校舎 南野3-163
 ⑤ グランピア星崎 元鳴尾町47
 A 三井化学(株)名古屋工場 丹後通2-1（一時避難場所）
■ 鳴尾公園



⑩南二町内会

項目	震災後の安否確認&避難行動マニュアル
グループ名	南野二丁目公民会(Dグループ)
行動マニュアル	大地震発生(1～2分程度)が治まってからの行動
安全確認	①在宅家族に声かけて無事の確認 (安否確認方法は各家庭で事前確認) ・家族のけが人等の状況把握 ・不在家族で連絡不通は災害伝言ダイヤル利用 ・火の元確認と電気系統の遮断 ・非常持ち出し袋の持参(貴重品・水・非常食・他) ・テレビまたは携帯ラジオ等で情報収集(避難指示確認)
避難準備	②自分・家族の安全確認告知の実施(玄関への目印) ③隣近所への声掛けし指定緊急避難場所(星崎小学校)へ同行 ④可能な限り支援者と自主防災担当は災害時要援護者を同行 ⑤避難経路は安全な広く大きな道路を誘導
指定緊急避難場所	⑥組長は町内名簿にて到着者を確認し自主防災担当報告 ⑦組長と自主防災担当は自宅待機者(マンション他)確認 ⑧支援者と自主防災担当は災害時要援護者の避難確認 ⑨公民会長は災害台帳にて安否の最終確認 ⑩公民会長は避難状況最終確認できたら地区本部連絡
課題	①震災の発生が昼か夜か、在宅か不在かにて対応変化 ②星崎小学校へすぐに行けない人を 津波避難ビル(星崎運輸、ダイマル)へ避難の必要性 ③非常持ち出し袋の定期的点検確認 ④要援護者への避難の責任分担の明確化 ⑤一人一人の日常の防災意識と行動(訓練)の徹底

⑪南三町内会

避難行動・安否確認マニュアル		
グループ名	D グループ 南野三丁目公民会	
日常の準備	平常時からの心がけ 安否確認マニュアル 家庭内での非常持出品の準備と家族全員の日常からの行動連絡の習慣を身に付ける 地域住民、向こう三件両隣の付き合い、挨拶習慣に心がけ、少子高齢化の環境認識と助け合い互助に勤める。 水害、震災等各災害発生時の避難方法の確認、町内、組単位での連絡網(日常からの催事での運用活用習慣)の準備と各組単位での組長持ち回りの習慣化(災害時要援護者配置把握と避難時の安否確認呼びかけ行動…連絡網、災害台帳の整備)	
地震・災害発生		
1) 発生時	地震(災害)発生状況確認…行動可能な状態判断 …警報、余震、情報、動きに注意 身の回りの損害、破損状況確認、季節、曜日、時間による環境対応	家族の安否確認行動
2) 発生直後	火の元、電気短絡、水道管破損等、屋内の損傷 ⇒ 屋外出口確保、周辺の損傷確認から移動開始まで 情報収集…放送、通信機器、	近隣住宅の損傷具合確認と住民の声かけ安否確認
3) 発生終結避難時	避難準備…非常持出品と服装、装備 運動靴(安全行動的履物)ヘルメット(頭部の被り物)、軍手(手袋)	
4) 避難行動の開始	避難開始…屋外周辺経路損傷確認、 倒壊、破損、出火、電柱電線損傷 確認しながら 地域住民住宅の損傷確認 負傷者、火災等 初期対応可能な場合の行動 又は 緊急連絡 (南三地域 は 南東北 と 小学校取り巻く配置に付 各組単位避難行動)	避難移動中の住宅インフラ設備の損害確認しながら 近隣、避難経路での安否確認、災害時要支援世帯の確認、町内会組単位での把握
5) 避難場所での活動	集合場所到着後の対処 安否確認情報、緊急対処(負傷、火災)損害 の状況報告収集 避難者各組単位メンバーで 情報整理 確認済/未確認 損害有無、状況の整理 各組長にて 要避難支援者宅状況の把握	
	各組長(組代表者) ↓ 不在時は次該当者へ(要緊急情報は対策本部等へ) 防災会役員 ↓ 各組会員情報と災害時要援護者…名簿表確認 会長(副会長) ↓ 町内全体把握 地区本部 ◆ 損害要緊急対処情報の連絡実施	避難場所集合での避難者集結状況把握 組単位での情報収集状況集計と 避難経路状況からの損害状況情報まとめ。

6)	避難者情報の集計	安否確認情報 とあわせて 重傷、軽傷 要治療者 対処 損害(火災、倒壊、電線損傷、水道破裂等)の 対処 と優先度 情報をまとめ 本部連絡	安否情報の集計 と 活用へ 集計データ/全世帯数 避難者/要支援者世帯 負傷者の数、程度、緊急度…情報提供と 救急治療の必要要求へ 避難後の生活必需品の必要数の把握等 本部へ連絡
7)	集計情報の活用	安否情報、損害情報 とあわせて 今後の避難所での、情報収集と行動、生活確保の準備	

日常生活より災害に対する意識向上を深める環境作りが重要

南野三丁目 地域 は 小学校 を取り巻く 位置関係より 各組単位終結での避難より 各世帯単位での 避難行動が 効率的か

マンション住民 は 耐震構造建築 より 2階以上の階上避難が 理想

コーポ、アパート住居住民 は その 建築構造、階数 により 建屋階上避難、小学校避難の選択

震源地、発生規模により 小学校よりも 短時間避難が 必要な場合地域 はダイマル立体駐車場、中部工業外階段(要 鍵)からの屋上避難

普段からの 緊急連絡網の準備…運動会、祭礼、雨天時決行/中止 等 利用も活用可能な場合も想定